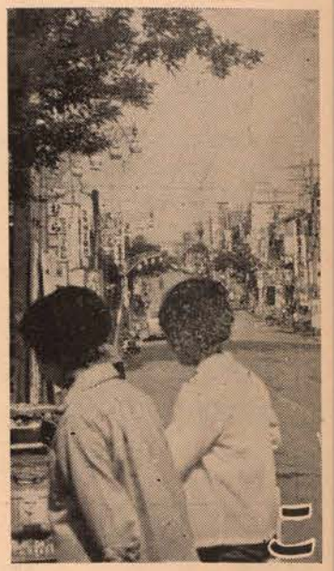
としの市政と市民生活
市政はどう進められるか



毎年の四月は、官公庁では正月を意味します。わたくしたちの生活につながりの深いことしの市政は、四月からはじめられるからです。

新年度予算も、三月の市議会で通りましたが、この議会でのべた、原田市長の施政方針にそってこの予算が使われることになります。そこで、こん月は、施政方針をわたくしたちの生活という点に重点をしぼつてご紹介したいと思います。

既存産業を育てるため こんな点に気をくばりました

経済の自由化は、第一次産業の多い留萌の産業にも大きな影響が予想されます。このため、ことしは、いろいろな事業をします。

まず農業では、限られた土地から効率的な生産をするというために、適地適作に力を入れます。

水稲は、もはや量より質の時代です。そこで、この地方にはどの品種がよいかとか、土地の性質を調べて土性調査図をまとめ、農家の指導、生産増を科学的に進めます。

また、留萌地方の野菜は値段が安くなつてから出まわつていますので、これを温室栽培するよう、補助金を出して奨励します。

畜産では、乳牛を導入しても、牧草が不足しています。これでは乳牛の導入ができませんので、市がお金を出して、公共的な大牧草地を作ることにし、ことしはどこにするか適地を調査して決めます。また、タルマップを養豚基地に決め、グループで近代的な共同作業をしながら豚の生産をはかります。

漁業、とくに沿岸漁家の経済安定のため、枯れはてた沿岸資源を人工的に増やします。

のり、こんぶ、わかめの人工養殖試験をことしも続けるほか、少なくなつたあわびの移殖を大きく行い、しかも価格の安定をするため、共同蓄養施設を作り、一度に品物が出て値をたたれぬよう、とれたものをかつておく施設も作ります。

また、二千個の大型魚礁や投石をして、魚のアパートづくりもします。

商工業では、いままでとおり、機械貸与、特別融資の制度がありますが、とくにことしは、中小企業の特別融資制度の利用を広げるため、融資額を二千六百万円に増やすとともに、取り扱い銀行の数を、拓銀、信金のほかに増やすことにしています。

広域都市と市勢振興計画

市政を無計画に進めることは、予算の浪費であり、事業を効率的に行うことにはなりません。

そこで、留萌市はどう進むべきかという、市勢振興長期計画をたて、これにあわせて市政を計画的に進めることにしました。

この計画の最終の目的は市民の生産額と所得を増やしていこうというものです。

経済は、生きものでたてた計画も、その通りいかないこともありますが、計画により近づけようと努力しようとするものです。

計画は、昭和三十八年度を初年度にし、ことしからはじまつた第二期北海道総合開発計画にそうたものにしようと、いま作業を進めています。

もちろんこの計画には、留萌港を経済のかなめとした中部新産業都市との関係や、小平、増毛の近隣町村との提携など、三市町村の指導者がかねてから唱えている広域都市行政の考えがおし出されています。

また、これにあわせて、市勢振興調査として、市民所得調査、公民館建設基礎調査、簡易水道設置地区調査なども進める計画です。

市道では初の舗装道路も 道路は都市活動の動脈です

近代的な都市づくりは、まず道路、下水道の整備からといわれています。

とくに、下水道の整備はそのまちの文化のバロメーターとまでいわれています。

そこで、ことしは、全市的な下水道網をどのように作つたらよいかと、その基本計画の調査をします。

留萌市は、ご存じのように、坂道が多く、それだけ下水道の計画的な工事が必要なわけです。

実際の計画は、ことし終る調査に基づいてたてられます。

また、道路では、留萌市の管理している市道では、はじめての舗装工事が、十字街から岡田鉄工場までの南大通りで行われるほか、全延長にして、留萌市と深川市を往復するほどの長さになる各所の市道の補修などが行われます。

さらに、道路と宅地との境界を正確にするため、ことしから大がかりな測量が行われますが、これなども、これからの道路行政に欠くことの出来ない重要なものです。

さて、二年前から進めています花園地区都市改造事業は、ことしも幹線道路の造成がはじめられます。

都市改造事業というように、この地区の都市計画は東光小学校を中心にした広い地域を五番目の街に作りなおそうという大がかりなものです。

とくにこの地区は、駅前からの直線道路を作るなど商店、住宅などの移転がからむだけにむずかしさがありますが、この改造事業が終りますと、留萌市の一大商店街が実現するでしょう。

一方、失業対策事業も、たんに失業者の吸収というだけでなく、都市づくりに一役かつて、住宅団地の造成、道路、排水溝の造成、清掃、除雪のほか、道路の改良補修に使う石の採石事業などを進めます。

二年計画で 汚物処理場を建てます

人口が多くなるにつれて悩みの種が多くなりますがその一つは、し尿処理するということです。

そこで、ことしは二年計画でいままでなかなか手がつけられなかつた、汚物処理場の建設にとりくみます。

この工事は総額七千万円をかけ、敷地三千坪に、近代的な処理施設をするという非常に大がかりなものです。

この汚物処理場は、今後十年後の人口増を見こして一日に四十キロの処理ができます。

建設資金は、そのほとんどを起債や補助でまかないますが、留萌市が優先順位にありますので、明るい見通しです。

ところで、毎日お宅をまわるゴミ集めは、きょねん新らしく購入したロードパッカーのほかは、自動車二台、馬車六台とも、積みおろしにゴミが散つて困ると苦情をいただきましたのでことしは、この自動車、馬車全部を、ゴミの散らないように改善します。

公営住宅をふやします

住宅難は、大きな社会問題を引き起すことがありますが、明るい市民生活を送つていただこうと、ことしも、きれいな公営住宅を建てます。

ことし予定しているのは第一種十八戸、第二種三十戸の計四十八戸です。

まだ、充分な数とはいえませんが、できるだけ毎年多く建てるように努力しています。

公営住宅は、安い料金で明るい健康的な生活を送つていただこうと毎年建てているものですが、現在市が管理している公営住宅は、全部で六百四十二戸に達しています。

中学校に特別教室
各校の増改築に力を入れます

科学技術の振興ということから、中学校で技術家庭科目が設けられることになりましたが、留萌市では、さつそくことしからこのための特別教室を増築することにしました。

せっかくの教当も施設が整備されなくては充分な教育が出来ませんので、留中港南中、北光中、幌糠中の四校とも計画しています。

また、生徒増による中学校の新設は一応終りましたので、ことしは、各小中学校の増、改築に力を入れ、教育施設の充実をします。

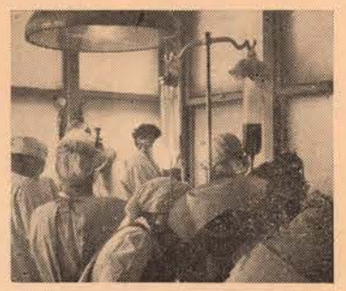
なお、各学校の教育施設の整備資金にあてるため、学校造林をすゝめ、ことしは、幌中、留中、港南中、幌小、留小、東光小に総額十万円の補助をします。

総合病院建設目標へ
手はじめに両会計を一本にまとめます

いま、留萌市には、東、西病院を経営していますが、将来総合病院を新設するという基本方針にたつて、ことしから両病院を一つに考えた整備を進めます。

そのため、いままで別々の経営をしていたものを一本にまとめ、さらに両病院の長所短所をたがいにおぎない診療科目を増やしたり入院の設備を整えることにしました。

とくに、留萌市の病院は近隣の増毛、小平からも利用される方が多く、その改善整備は、市ばかりでなく管内の総合病院として強い要望でした。



消防施設の整備促進
—大災から市民を守る

きょねん、留萌市火災発生は、戦後最低という喜ばしい記録を作りました。

これは、市民のみなさまのお力によるものと喜んでいます。

しかし、火災発生の危険は、常に大火の恐ろしさを伴つています。

そこで、ことしも消防施設の整備も続けます。

これは、年次計画で整備を続けているものですが、ことしは、消防自動車一台を購入するほかホース二十本、消火栓六基、その他水利施設などの改修に力を入れて、無火災都市に進みたいと考えています。

農村の中間駅設置に補助
第三回市民体育大会も

このほか、農林地区のみなさんの便宜をはかるため東幌糠、藤山番外の沢の二カ所に中間駅を設けるために市から補助金を出します。

さらに、ことしから、各地区の住民組織活動が活発になつてきましたので、住民が集まる部落会館を建てたいという所には、補助金を出すことを考えています。

なお、市民体育大会は、ことしで三回目、ことしも全市民のためのレクリエーションとして盛大にしたいと思います。